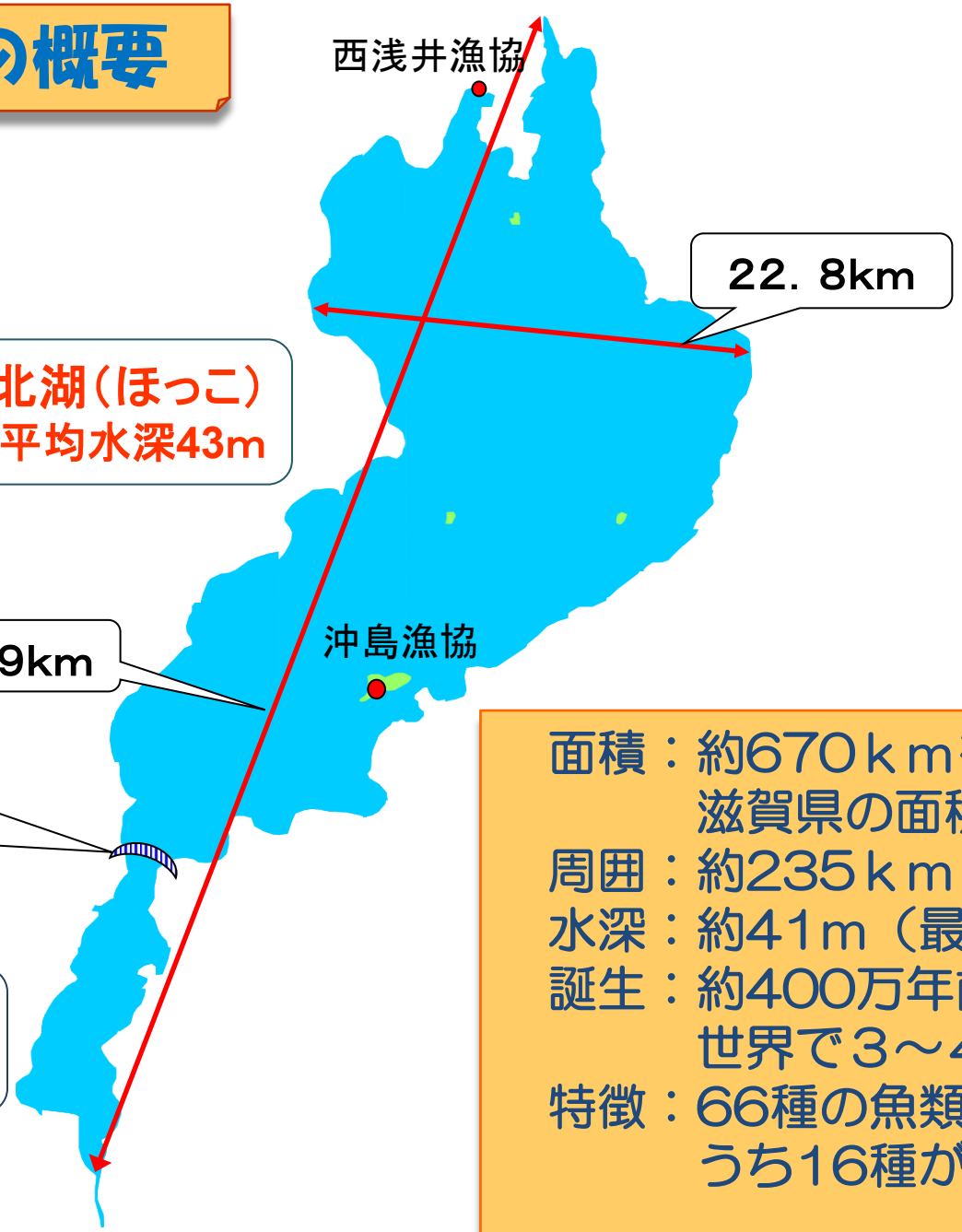
【講演２】

琵琶湖漁業における作業安全の取組について

２０２５年10月24日

滋賀県漁業協同組合連合会　専務理事　澤田宣雄

琵琶湖の概要



面積：約670ｋｍ^2（日本最大）
滋賀県の面積の1/6
周囲：約235ｋｍ
水深：約41ｍ（最深約104ｍ）
誕生：約400万年前
世界で３～４番目に古い
特徴：66種の魚類が生息
うち16種が固有種

琵琶湖の水産資源　（琵琶湖固有種が多い）

コアユ

佃煮

ニゴロブナ

ふなずし

セタシジミ

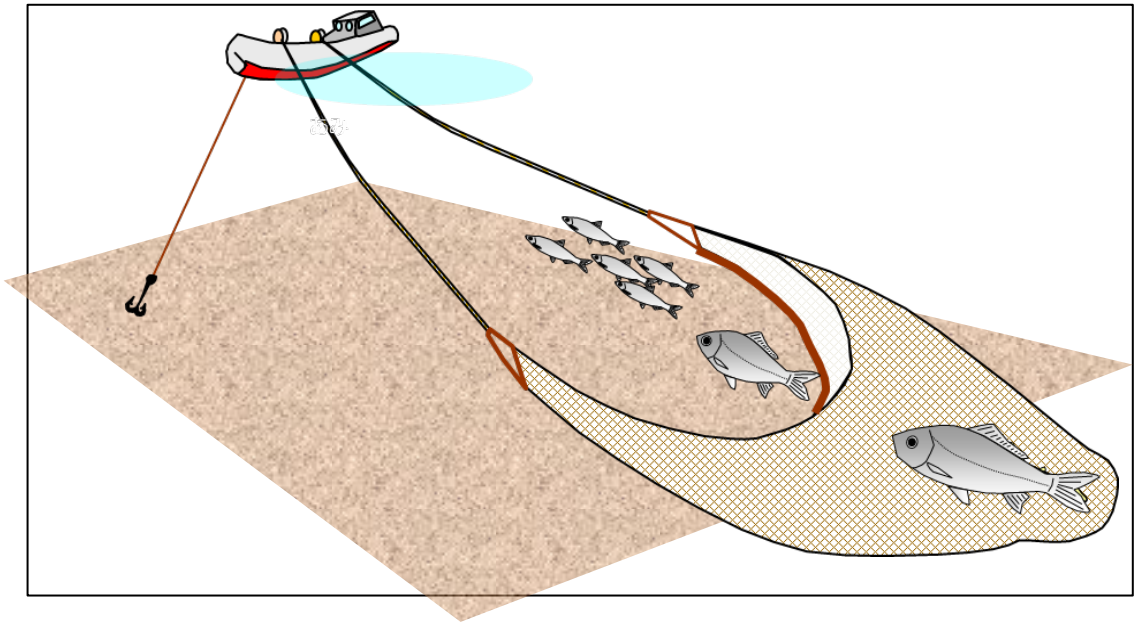
味噌汁

琵琶湖の漁法と操業時期、対象魚種

	春	夏	秋	冬
小型定置	アユ、ホンモロコ、ニゴロブナ、イサザ	アユなど		アユ（ヒウオ）
手繰第３種	セタシジミ 4/30まで	セタシジミ 8/1～	セタシジミ	セタシジミ
手繰第１種	エビ類 4/30まで	ゴリ 7/20～	ワカサギ ホンモロコなど	
刺　網	ニゴロブナ、アユ	ビワマス、アユ	モロコ類	ニゴロブナ、アユ
引縄釣り	ビワマス 9/30まで	ビワマス 9/30まで	ビワマス 9/30まで	ビワマス 12/1～
タツベ	フナ類、コイ			
追いさで網	アユ			
あゆ沖すくい網		アユ 6～7月		
ヤ　ナ	アユ、ウグイ	アユ、ハス		

※琵琶湖では大きな漁船を使用する漁業・漁法はなく、ほとんどが5トン未満の漁船

沖島漁協の漁業者による底曳き網漁（多くが夫婦で漁労）



琵琶湖の底曳き網漁は1隻でのかけまわし漁法

コアユの刺網漁業用に櫓を組んだ漁船（沖島：夜間に操業）

引縄釣り漁業

2010年頃よりビワマスを対象とした引縄釣り漁業が増加

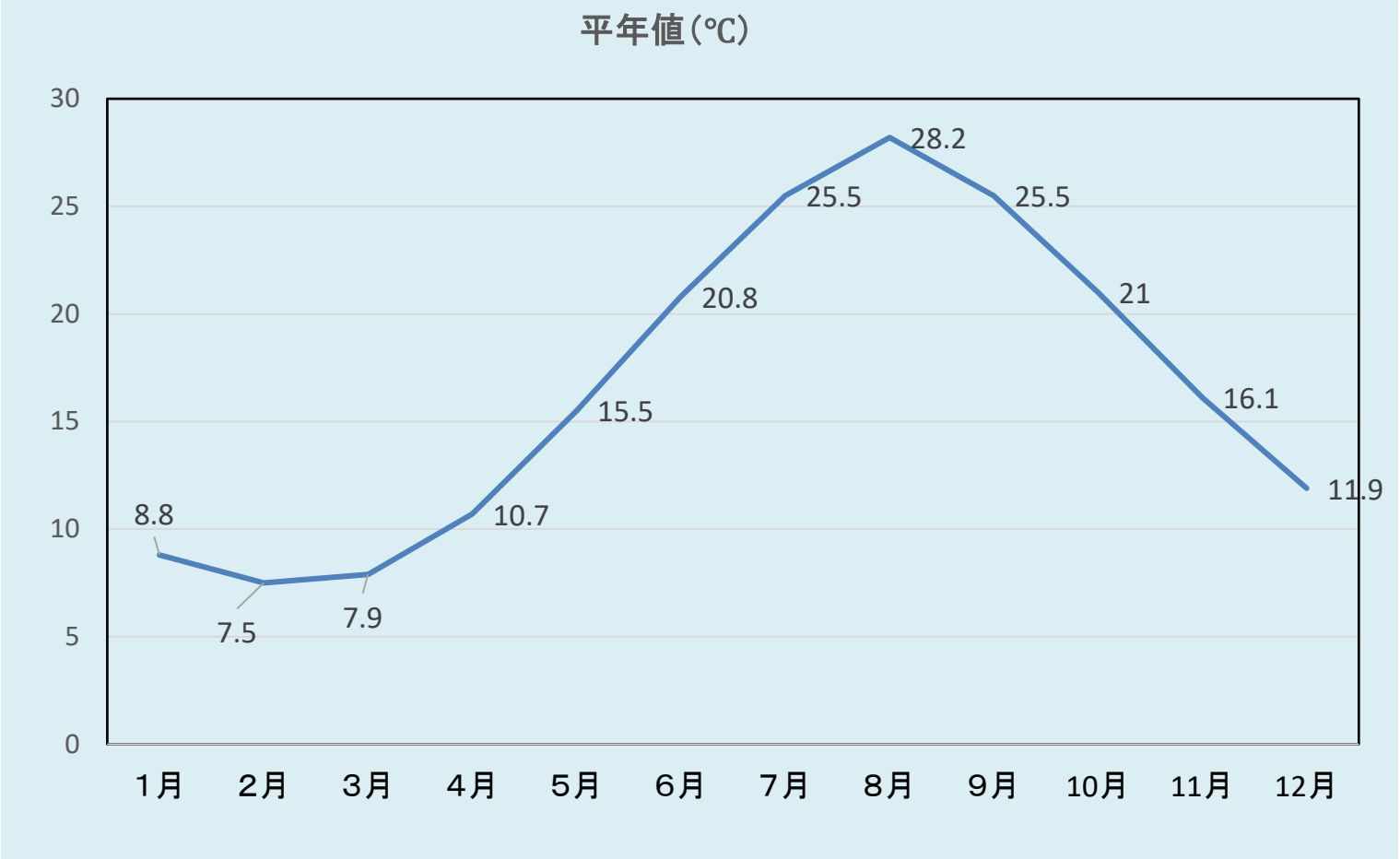
琵琶湖の波浪

琵琶湖は周囲に1000m級の山があり、日本海から北西部の低い山の上を通って南東部へ吹き抜ける風の通り道となっており、複雑な風が時折強く吹く。それにより高い波が発生する。

海とは違い波長が短いため、小型船は大きく縦揺れする

琵琶湖水温の年変化（表層～5m平均平年値）

滋賀県水産試験場定期観測データより



冬季（1～3月）は10℃以下となり、<u>2月には最低水温（7.5℃）</u>となる

沖島漁業協同組合 （淡水湖で人が住む島）

組合員数　　正　59名、　准　59名
主な漁法　　刺網漁業、底曳き網漁業、小型定置網漁業、
　　えびたつべ漁業、引き縄釣り漁業、延縄漁業など

沖島漁港

メーカーによるライフジャケットの点検、講習会

水上警察との救難訓練

日常の取組

・ライフジャケットには常に関心が高く、作業に応じて肩掛け、腰ベルトタイプを使い分けたり、冬季は保温効果の高いものを併用するなど、ライフジャケットの着用を必須としつつ、柔軟に使いこなしている。

・ライフジャケットのボンベに対する意識も高い
　→　漁連への交換の問い合わせが多い

・出漁前に皆で天候の確認（スマホ等）をし、出漁の可否を相談
　→　「船底一枚下は地獄」は琵琶湖の漁師も使う言葉
　　出漁時にはお互いを見守り

西浅井漁業協同組合 （琵琶湖最北の漁協）

組合員数　正　24名、 准　34名
漁　　法　小型定置網漁業、底曳き網漁業、追いさで網漁業、
引き縄釣り漁業、刺網漁業、えびたつべ漁業

大浦漁港

メーカーによるライフジャケットの点検、講習会

日常の取組

・組合に自動膨張式ライフジャケットを複数着備え付け

→　組合員のライフジャケットに不備があればすぐに交換可能

・出漁前、出漁後の天候変化等は役員や事務員を中心に速やかに組合員に情報伝達

→　早めに出漁とりやめ、操業切り上げを判断